

令和6年度（2024年度）

学校評価報告書

令和7年（2025年）6月

八王子市立看護専門学校

## 令和6年度（2024年度）学校評価

本校は、看護師として必要な知識・技術・態度を養い、保健医療福祉チームの一員として社会に貢献できる有能な人材の育成を目的としている。

八王子市立看護専門学校学則（以下「学則」という。）第8条に基づき教育の充実を図り、学校の目的・目標を達成するために学校における教育活動の状況と学校運営について、評価項目を9つの大項目に分け、さらに各項目について複数の小項目を設け、昨年度に引き続き専任教員による評価を行った。

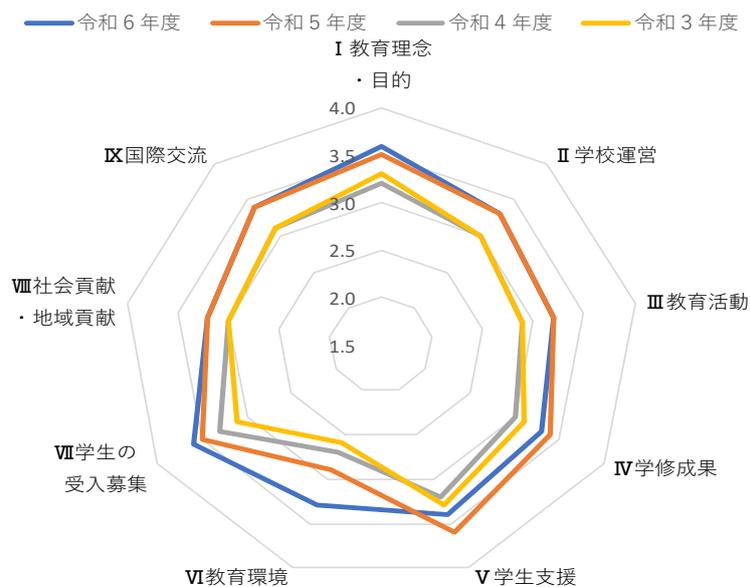
### 自己評価

評価項目	I 教育理念・目的	II 学校運営	III 教育活動	IV 学修成果	V 学生支援	VI 教育環境	VII 学生の受入募集	VIII 社会貢献・地域貢献	IX 国際交流
令和6年度	3.6	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3	3.6	3.2	3.4
令和5年度	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	2.9	3.5	3.2	3.4
令和4年度	3.2	3.0	2.9	3.0	3.2	2.7	3.3	3.0	3.1
令和3年度	3.3	3.0	2.9	3.1	3.3	2.6	3.1	3.0	3.1

※評価基準【4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切】

### 【参考】学生による評価

評価項目	V 学生支援	VI 教育環境	VII 学生の受入募集	VIII 社会貢献・地域貢献	IX 国際交流
1年生	3.5	3.3	3.6	3.6	3.6
2年生	3.4	3.4	3.6	3.4	3.6
3年生	3.1	3.2	3.5	3.1	3.3
平均	3.3	3.3	3.6	3.4	3.5



## I 教育理念・目的

### 【自己評価】 評価点 3.6

教育理念・目的・目標は教育要項に示し、入学希望者への説明会や市ホームページなどで周知している。また、入学時のオリエンテーションにおいて説明するとともに、在校生には日々の講義や実習前など折を見てその内容の共有に努めている。

教育理念等は本校の教育活動の指針となっており、今後、設置者である八王子市の状況を見ながら、社会の変化や医療をとりまく環境の変化を見据え、当校の特徴を生かしながら、第5次カリキュラムに対応している。

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類へ移行した令和5年度（2023年度）から引き続き、学校説明会（オープンキャンパス）を実施し、入学希望者に対して、本校の教育理念を説明した。教育目標等については、新入生ガイダンス（4月上旬）で説明したほか、日々の講義の中でも触れる機会を設け、教育理念等の理解が深まるよう努めた。引き続き、機会あるごとに教員、学生への共有化を図っていく。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 評価スコア（3.6点）は過去と比較して改善傾向にあるとの意見。
- ・ 市の広報誌等での周知強化についても提案があった。

## II 学校運営

### 【自己評価】 評価点 3.3

本校は、教育目的である看護師として必要な知識、技術、態度を養い、保健医療福祉チームの一員として社会に貢献できる有能な人材を育成するための運営方針を策定し、運営組織や意思決定機能は、学則等において明確化している。

学校運営に関しては学則に沿って、昨年同様、年4回の運営委員会議や定期的な教員会議を開催し協議している。

昨年同様、教育活動等に関する情報公開については、学校案内及び市ホームページにより行っている。

また、八王子市の公式 YouTube 等を活用するなど、新たな広報媒体を活用した学校の周知に取り組んでいる。

令和6年度は、ホームページのリニューアルを行い、本校の魅力発信に努めている。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ アクセス数の多さに対する評価と、若年層の情報収集手段としてネットやスマートフォンの重要性が指摘された。
- ・ ホームページの活用範囲について質問があり、大学のように講義資料のダウンロードや提出機能の導入可能性について意見が交わされた。
- ・ 紙媒体に頼らない連絡手段としての活用が期待されている。

### Ⅲ 教育活動

#### 【自己評価】 評価点 3.2

地域に根差し、地域の人々の健康と福祉に貢献できる看護師を育成する教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等を策定している。

教育理念・目的・目標に沿った教育内容の見直しは、令和2年度（2020年度）から開始した学生からの「授業評価」を基に、専任教員・外部講師との意見も踏まえ、参考に行っている。また、国家試験出題基準を確認しながら、医療をとりまく諸問題にも目を向け、年度末には授業内容の改善を図っている。

単位認定や・卒業判定の基準は学則に沿って明確に行われている。また、講義実施に当たり、専門分野領域で活躍されている臨床の認定看護師・専門看護師など優れた講師を招き、実施している。

専任教員については、専門分野に配慮し配置するとともに、それぞれの専門性を生かした教員間の情報共有に努めている。

教員の能力開発のため、日本看護学校協議会主催の「看護教育継続教育に対するニーズ把握のための研修」や「令和6年度看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会」等に参加した。

引き続き、学生へのアンケートによる授業評価を実施するなど、質の向上を図っていく。

#### 【学校関係者評価・意見】

- ・「授業参観」について、本校では実施していないところ、実技の見学は教育効果の可視化にもつながる可能性があるとの意見があった。

### Ⅳ 学修成果

#### 【自己評価】 評価点 3.3

第114回看護師国家試験結果の全国的な合格率は90.1%であるのに対し、本校は、全員合格の100%であり、昨年同様、高水準の合格率を維持した。

市内の病院による就職説明会を8月に開催。こうした機会を通して、公立学校としての使命を学生に周知を図った。令和6年度（2024年度）は八王子市内の医療機関への就職率は84.9%となっている。また、八王子市外の病院への就職を希望する学生にはその理由を明確にし、副校長・アドバイザーとの相談のもと支援を行っている。

令和6年度（2024年度）の退学者については、3人、除籍者は、1名であった。

欠席の多い学生との個別面談やその保護者への連絡を密にし、引き続き、退学者等の低減に取り組んでいく。

過年度において、早い段階からの国家試験対策を実施した結果が、合格率向上につながった実績があるため、模擬試験において成果の出ていない学生には、夏休みを利用したり、卒業試験終了後からの補講を実施し、指導を強化することで合格率100%を目指す。また、卒業生の動向を参考に卒業後を見据えた学生指導を行っていく。

#### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 大学のように講義と実習を連動させるカリキュラムの有効性について意見があり、ただし専門学校での3年間では実現が難しいとの見解も示された。
- ・ 現場の負担についても議論され、見学や実習の受け入れには人的リソースの確保が課題であるとの意見が出された。
- ・ 卒業後もリアリティショックで離職するケースがあることに触れ、教育段階でのメンタル支援の重要性が指摘された。
- ・ 「学修成果」は非常に多面的かつ難しいテーマであり、今後も継続的な検討が必要である。

## V 学生支援

#### 【自己評価】 評価点 3.4

アドバイザー制を採用し、一人の教員が1~3学年18名前後の学生を担当し、教員は学校生活全般の指導や就職・進路相談など、細やかな個別性に合わせた指導を行った。また、成績不良の学生には成績担当、及びアドバイザーの教員により、その学生の学習方法の見直しや今後の対策などを指導するとともに、状況によっては保護者と面談を実施し協力を依頼している。

健康管理体制については、学校保健安全法に基づき全学生への健康診査を年1回実施するとともに、精神的な不安が生じた学生に対しては、学校負担により専門医を紹介している。

修学資金等の経済的な支援については、各種奨学金制度の利用や八王子市独自の修学支援制度利用について、きめ細かく周知するなど相談支援体制を整備している。

今後は、学生指導等に関する方向性を明確にするとともに、さらなる教員間の情報共有を図ることなどによりアドバイザー制をさらに充実させる。また、学生からの意見として、OB、OGとの交流を望む声が挙がっていることから、同窓会との連携による卒業生との交流の場や支援の方法を検討する。

卒後1年目の卒業生を対象に、「ホームカミングデイ」を新たに実施した。30人が集まり、卒業生の悩みを教員が聴くとともに、卒業生同士の親睦を深めた。

就職後、リアリティショック等でメンタルダウンした卒業生が学校を訪問した際には、傾聴やアドバイスを行っている。

#### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 卒業生への継続的な支援の重要性が指摘され、ホームカミングデイや教員との交流の場が有効であるとの意見。
- ・ 卒業生同士の横のつながりや、異なる卒業年度間の縦のつながりについても議論され、同窓会活動の再開が期待されているが、コロナ禍以降、懇親会の開催が困難となっており、再開には予算や時期の調整が課題である。
- ・ LINE公式アカウントを通じた卒業生への情報発信を行っており、一定数の卒業生が登録しているが、つながりを求めない層も存在。
- ・ 卒業生・教職員が気軽に集まれる機会の創出が、支援体制の一環として有効であるとの提案があった。

## VI 教育環境

### 【自己評価】 評価点 3.3

令和6年度は、令和5年度と同様に、コロナ渦に実施していた遠隔授業を実施せずに年間を通し、授業を継続することができた。

感染症拡大防止に向けて、マスクの着用、手洗い、消毒の徹底など指導に努めたこともあり、学内でのクラスター発生はなかった。

また、学内実習の充実を図ることを目的としてシミュレーション教材等や実習用電動ベッドを新たに購入し学内実習に対応した。

実習は、1グループ約6名の学生に対し、教員1名さらに、実習病棟の指導者が専任で指導を行っている。

実習については、カリキュラムの変更に対応するため、新たに実習場所として「右田病院」、「高齢者あんしん相談センター」、「シルバーフラット」、「小学校の保健室」を確保し、地域で生活する人を支援するための少人数での実習を実施することができた。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ デジタル教材の利便性と学習効果のバランスについて懸念が示されつつも、Wi-Fi 整備による学習環境の向上に期待が寄せられた。

## VII 学生の受入募集

### 【自己評価】 評価点 3.6

学生募集に関しては、8月に学校説明会（オープンキャンパス）を開催するとともに、個別的な学校説明・見学者の受入れを随時行い、入学希望者に対する丁寧な対応に心がけた。また、広報のみでなく、八王子市の公式 Youtube 等も活用し周知に努めたほか、高校訪問や高校生への進路相談会へ積極的に参加した。

少子化傾向が進む中、看護大学が増設されており、看護専門学校への入学志願者が減少している。このため市立の学校としての本校の特色をさらに明確にし、社会人の受け入れ枠の見直しなど適正な入試制度の検討を行い、さらなる地域の医療や社会に貢献する人材の確保に取り組む。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 委員より、ホームページの刷新や広報手段の多様化により、窓口が広がっているとの評価。
- ・ 授業料の安さが学生の意識にどう影響するかについて意見があり、支援制度とのバランスを考慮した制度設計の必要性が指摘された。
- ・ 社会人学生の経済的負担についても議論され、働きながら通学する学生への支援の重要性が共有された。

## VIII 社会貢献・地域貢献

### 【自己評価】 評価点 3.2

令和6年度から看護師を目指す市民を対象とした「公開講座」を子育て支援課と協力して実施した。

東京医科大学八王子医療センターの防災訓練への学生の参加や高尾山の清掃活動などボランティア活動を実施した。

また、教育委員会からの依頼による「養護教諭研修」は実施し、参加者からは良い評価を得ている。

公立の学校として地域との関わり深めるため、引き続き積極的なボランティア活動の取組を行っていく。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 公開講座の案内が市報などで広く周知されることの重要性を指摘。

## IX 国際交流

### 【自己評価】 評価点 3.4

当校の独自科目でもある「国際文化交流」の授業の一環として、例年八王子市の海外友好交流都市である台湾高雄市を訪問し、現地医療施設の見学や中国語を用いた看護学生との交流を行うこととしている。コロナ渦の影響もあり、令和5年度は、海外ではなく、本市姉妹都市である北海道苫小牧市への研修旅行を実施したが、令和6年度(2024年度)は、海外友好交流都市への研修旅行として、台湾(高雄市)への研修旅行を再開することができた。

### 【学校関係者評価・意見】

- ・ 特になし

令和6年度（2024年度）学校評価報告書  
令和7年（2025年）6月発行

発行 八王子市立看護専門学校  
〒193-0944 八王子市館町1163番地  
電話 042-663-7170 FAX 042-662-9691